

令和6年 能登半島地震体験レポート

L.I.B.建築設計事務所 河原 充弘 [R6.11月寄稿]

例年通り穏やかな元旦を迎え、寛いでいた時にかなりの揺れを感じた地震、その数分後にスマホから震度5強を知らせる音が鳴り身構えたときに尋常でない揺れが発生し、とっさに妻と共に外へ出ました。揺れ動く道路、下の家が崖下へ滑り落ち続いて隣の家も、さらに我が家も引きずられように斜面に崩れだし遂には足元の道路迄も崩れました。指定避難場所の金沢市田上小学校体育館に避難、翌日には田上公民館が避難所となりました。

約二か月間、避難所・事務所・親戚の家で寝泊りをし、何も持ち出せない状況下で、友人・知人・同級生・設計仲間が避難所に駆け付けてくれ、食料・生活物資を届けて頂いたり今後の事を含めて心温かい言葉で勇気づけられました。

困ったことは、自分が自分であることを証明する事ができないことです。身分証明書となるものが崩落した家の中でした。立入禁止の忠告を聞かず、なんとか家の中に入り思い出の詰まったアルバム、印鑑等の貴重品だけは取り出すことができました。全壊・解体となった人達も同じ体験をされたと思います。家財・衣類・生活家電・仏壇も全て失ってしまう災害でしたが幸いにも自宅と事務所は離れており仕事は継続することが出来ます。

なぜ金沢市内の団地で私の住む一角だけ土地の崩落が起こったのか？

切土・盛り土からなる造成地であり、一定の高さを超えた法面・がけ地は地震エネルギーが解放され地形指標値は1.25倍に増幅されること、また発災後の調査で、円弧滑りによる土砂崩れが発生したとも聞き及び、砂防学会の報告では地質が山砂で粒度が均一であり地下伏流水が多く、液状化が発生したとの報告も目にしました。

発災により全壊となった周辺家屋は付属棟を含め5棟、一部宅地崩落2棟

宅地Aは擁壁を築造し、木造在来工法2階建て住宅で土砂と共に崩落し別棟付属建物全壊、住宅棟は崩れた土砂と共に崩落

宅地Bは擁壁を築造し、2×4工法の2階建て住宅で土砂と共に崩落し損壊

宅地Cは1階鉄骨構造2階木造在来工法住宅で、土砂と共に崩落し建物が大きく傾き損壊

宅地Dは1階鉄骨構造2階木造在来工法住宅で、土砂が崩れ基礎が表しとなり建物が傾斜

上記A～Dは道路・近隣宅地の被害拡大防止の為に応急復旧工事において3月に解体撤去されました。



発災直後の写真

被災により自助、共助、公助を経験しました。

自分・家族を守ること、隣人・友人・知人の助け合い、公的支援です。

今回被災した者にとって、皆様方からの多大なお見舞い・義援金を賜ったことや石川県建築士事務所協会様・金沢建築士会様からのご支援、金沢市、県、国からの支援において寄り添って頂いたことに、心より感謝申し上げます。

石川県建築士事務所協会会報

『Harmony』2024年能登半島レポートNo.2 令和6年11月発行
 発行者／(一社)石川県建築士事務所協会 編集者／広報委員会
 TEL(076)244-5152 FAX(076)244-8472

〒921-8036 金沢市弥生2丁目1番23号(石川県建設総合センター5階)
 E-mail:ishikyokai@ishi-kjk.or.jp URL:http://www.ishi-kjk.com